

教えて！ 自主 防災組織

吉敷町三丁目自治会
に を聞きました

秘訣 大災害発生直後の活動が命を救う、自主防災組織。身近な例として、14年間にわたり地域の防災に取り組んできた自治会を取材し、活動の工夫をうかがいました。

訪ねたのは…



▲役員は80名。のべ9名の防災アドバイザーと防災ボランティアコーディネーターを配備しています。

吉敷町三丁目自治会(大宮区)

会員数は、480世帯。「自治会は仲良く楽しく」をモットーに、夏祭りや運動会、学童の通学見守りや清掃など熱心に活動しています。自主防災組織の設立は、平成10年。「大災害に備え、自分たちのまちを最低限守れるように」と、地域の医師や看護師にも協力を得て結成しました。

Q どのような活動をしてるのですか？

A1 情報共有

「防災マップ」で一目瞭然！

各世帯に「町内便覧」を配布。災害時の避難所や防災倉庫、町内に設置している消火器や防災井戸などのマップを作成して、住民に知らせています。また、全30班の委員には、ヘルメットやジャンパー、無線機などを貸与し、年度が終わると次の委員にバトンタッチします。委員は毎年持ち回りのため、備品を受け取ることで防災意識が自然に高まります。



▲防災対策本部長で防災士の野村勇さん。

A2 備品整備

計画的にそろえ、こまめにメンテナンス

防災倉庫の中には、ハシゴ、ロープ、テント、担架、車椅子、簡易トイレなど、さまざまな備品を保管しています。入れ替わりにせず、祭りやイベントのときに随時使用してメンテナンスをすることが大切です。さいたま市に申請すると、自主防災組織の運営や備品訓練などに必要な補助金が交付されるので助かります。毎年計画を立てて、少しずつそろえています。



▲防災対策本部長で防災士の渡邊紀久雄さん。

A3 防災訓練

形式的でなく実践で役立つ訓練を

毎年9月の第1日曜日、行政機関の協力を得て、小学校で防災訓練を実施しています。参加者は、約1000人。実施内容は、避難誘導訓練や実際の消火器による初期消火訓練をはじめ、はしご車によるマンションからの救出、吹き出し、無線機による情報収集・伝達訓練など多岐にわたります。形式的でなく、実践で役立つリアルな訓練を行っています。



▲副本部長の横山好之さん。



防災倉庫の中身(一部)

結成のきっかけはリヤカー

消火班長の小島清好さんは、昭和20年3月の東京大空襲で家族を失った体験から、災害時に役立ててほしいと自治会にリヤカーを寄付。これを機に、組織設立へ動き始めました。



消火訓練



AED訓練



高齢者避難



吹き出し訓練



負傷者運搬



煙体験訓練

Q 活動してきて感じたことは？

A1 良かったこと

防災訓練の実施で、ある程度の防災知識が身についたと思います。外置き消火器の設置は個人の敷地内なので、皆さんの協力で感謝！連帯感も高まりました。昨年3月の大震災では、町内を巡回し、被害状況を確認し合いました。

A2 困っていること

防災訓練が必要なことはわかっていますが、時間帯や個々の理由でなかなか参加できない人が多いです。災害弱者の救出も整えていかなければなりません。また、役員の高齢化が進み、交代が困難になっていることも悩みです。

A3 今後の課題

本番のとき、災害時の火災や予想を超える避難者が集まった場合など、現在の体制でどこまで機能できるか疑問です。そのためにも、学校や自治体との具体的な連携は欠かせません。



▲自治会長の本島紋次郎さん。

さらに詳しく学べます！

さいたま市では 防災アドバイザーと 防災ボランティアコーディネーターを 養成しています

防災アドバイザーとは、防災士の資格を持ち、地域の防災力向上のために率先して活動する人たちのこと。防災ボランティアコーディネーターとは、災害発生後設置されるボランティアセンターで運営や調整を図る人たちのことです。さいたま市では、それぞれ講座を開催し積極的に養成しています。



地域の防災力を高めるために不可欠なのは、住民同士の助け合いです。吉敷町三丁目自治会では、長年蓄積してきた自治会活動が、自主防災組織の運営に活かされていると感じました。「リーダーの熱意を支え、コミュニケーションを図ることが大切です」と役員の方々が。信頼関係は、大きなことではなく、日々の挨拶から培われるのでしよう。

問合せ

危機管理部 防災課
0829-11126